

『ぼくらがつむぐ未来の街づくり ―地域の後押しを発信力に―』

あま市立美和小学校

1 目的

美和小学校では、目指す児童像である「考える子」「思いやりのある子」「がんばる子」を育むため、地域の協力を得ながら子ども達を育てています。無理のない持続可能な協力体制を模索しながら保護者や地域の方を中心とした関わりの中で、子ども達が体験活動を通し、見聞を積み重ね、賢さやたくましさ、優しさを育てていってほしいと願っています。そして、いつも温かく支えてくれる地域の方々に感謝し、将来的にはその仲間とともに地域を支えていく存在に育ってほしいと願い、教育活動を進めています。

2 内容 「考える子」「思いやりのある子」「がんばる子」を育む事業

(1) 6年生職業講話

子どもたちが未来に夢をもち、将来の生活につなげていくためには、いろいろな職業や生き方に触れることが大切です。6年生の職業講話では、子どもたちに関心の高い職業をアンケートで聞き取り、その結果をもとに地域から4名の講師をお招きしました。子どもたちは自動車修理工や理容師等の希望の講座に分かれて参加しました。石材の講座では、話を聞く中で実際に石板に手形をつける体験活動に取り組みました。子どもたちは、講話と体験活動を通して、働くことの意味ややりがい地域講師の方々から教えていただきました。

(2) プログラミング教育の模範授業

学習課題に対して自ら学び追求していく

「考える子」を育成するためには、子どもたちに対する教師の高い指導力が必要とされます。とりわけ発達段階に応じたプログラミング学習のカリキュラムの拡充と指導法の確立は早急に必要です。そこで、専門の講師を招いて、5年生でプログラミングの模範授業を行っていただきました。講師



【プログラミング教育の模範授業】

の的確な指導を見て、教師はより質の高い指導法を学ぶことができました。

(3) 情報モラル教室

これからの時代を担う子どもたちには、情報教育が不可欠です。ICT機器を活用した調べ学習を行う中では、情報モラルの知識と自分を律して正しい判断をする知識と知恵が必要となります。5、6年生は情報モラル教室を実施することで、安全に情報を扱う方

法や、SNS等を利用する際のルールとマナーを学びました。情報モラル教室を通して、将来、社会で必要とされる正しい判断力と相手を思いやる豊かな心情の育成に努めました。

（４）ＩＣＴ教育研修会

喫緊の課題の１つであるGIGAスクール構想への対応のために、講師を招いてICT教育研修会を実施しました。iPadの活用法をはじめとしたICT機器の有効利用の方法について、実践を通し理解を深めました。日常の授業に生かしていける新たな教育技術に対するスキルを向上することができました。

（５）田植え体験

地域で農業を営む方や農協のご協力により、５，６年生の子どもたちが、田植えや稲刈りなどの体験活動に取り組むことができました。また、地域の方々とのふれあいを通し、児童は温かい気持ちを感じ取ることができ、農作物のありがたさや農業に携わる地域の方々に改めて感謝するよい機会になりました。



【田植え体験】

３ 評価

コロナ禍で教育活動が制限される中、できることを考え、地域の方や保護者と一緒になって子どもを育てる環境づくりに努めました。農業委員さんや地域講師の方々との関わりの中で、子どもたちは安心感と感謝の気持ちをもって日々成長しており、子どもたちが将来、地域とつながりをもって活躍していく礎ができたように思います。

GIGAスクール構想への対応として、講師を招いて職員研修を行ったことで、全ての職員がタブレット端末を活用した授業の指導法の幅を広げることができ、失敗を恐れずにチャレンジしていこうとする気運が高まりました。それにより、学習活動でのタブレット端末の使用頻度が増え、子どもたちの活用のスキルも向上しました。

４ 課題

地域講師の方々や保護者の皆様とともに学ぶ中で、子どもたちは体験を伴う知識を得て、自らの考えを伝えようとする素地が育ってきていると感じています。今後は、地域や保護者のご協力という人的環境を、より効果的に学習活動に結びつけていく工夫を模索していきたいと考えています。